

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400010		
法人名	社会福祉法人 手稲ロータス会		
事業所名	グループホーム 手稲ゆうゆう		
所在地	札幌市手稲区稲穂5条2丁目6番5号		
自己評価作成日	平成24年4月10日	評価結果市町村受理日	平成24年6月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kanl=true&JigyosyoCd=0190400010-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成24年5月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①社会福祉法人として、併設の特別養護老人ホーム、老人保健施設と24時間体制で医療連携している。
- ②外出行事、夏祭り、慰問への参加、火災などの避難訓練でも連携している。
- ③職員の定着率が高いので、入居者の個別性の把握や円滑な業務に繋がり、質の高いケアが提供できている。
- ④共用型の通所介護事業も行っているため、入居者も一緒にレクリエーションをして、日々の生活にメリハリができて活性化している。
- ⑤2ユニットが1フロアにあるので、昼夜共に互いをカバーできる。又、死角が少ない造りになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市手稲区の高台に位置する「グループホーム手稲ゆうゆう」は、樹林に囲まれた自然豊かな環境にあり、遠くに石狩湾を眺望できるグループホームである。同法人経営の特別養護老人ホームや老人保健施設も同じ敷地内にあり、慰問行事を通して小学生や高校生と触れ合ったり、災害対策など、法人間で協力体制が取られている。法人のバックアップ体制が充実しており、定期的に法人主催の研修を行い、管理者を中心に職員の育成にも力を注ぎ、安定した職員体制の下、質の高いケアが行われている。マニュアルや書類も整備されており、常に向上心を持って積極的に課題に取り組む姿勢に、家族からも感謝の言葉が寄せられている。年間を通して家族参加の行事も多く、家族との信頼関係も深められており、率直な意見や要望を話し合える関係づくりができています。また、個別支援の買い物や3月を除いて毎月1回バスでのレクリエーションを行ったり積極的に外出の支援をしている。利用者の日々の変化を詳細に記録して職員間で情報を共有し、統一したケアを行っている。接遇の研修も定期的に行われており、各職員の声かけや働きかけも穏やかである。また、環境整備にも細やかな配慮があり、家庭的な温もりのあるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(かえでアウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「運営理念」をエレベーターホール、各ユニット、職員室に掲示して、常に確認できるようにしている。又、カンファレンス、職員会議、日頃のケア提供時など必要な時に理念に立ち返って検討し実践に取り組んでいる。	運営理念に「地域との交流を通して、社会の一員としての生活を維持できるように支援します」という文言を掲げている。パンフレットに掲載し、居間や職員室など常に意識できる場所に掲示している。対応で課題が生じた時には理念に立ち返り、全職員で検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は、地域の小学校の「学芸発表会」に出かけているが、昨年は風邪の流行で実施していない。法人の夏祭りでは、地域の方々とのふれあいがある。社協を通したボランティアの活用もある。手稲区のふれあいフェスティバルの見学も受け入れている。	同法人の特養ホームの慰問に来訪する小学生などと触れ合ったり、法人で開催する夏祭りでは、民謡や小学生のよさこい披露などがあり、訪れた近隣住民と交流を行っている。現在、法人として町内会の加入を検討しているため、今後も更に地域との交流を深めて行きたい意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成18年に通所を開設したので、認知症高齢者の在宅生活の継続を支援している。又、利用目的の問い合わせ時、利用以外の選択がある場合、検討を助言している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。事業計画・報告、月間行事や年間行事、自己評価・外部評価を報告し、家族代表の要望や地域代表の助言などをもらい、運営に生かしている。更に、会議録を家族に送付するとともに、職員に回覧し、情報を共有している。	2か月毎に定期的に開催し、事業所の状況報告や外部評価報告、家族参加行事の反省などが行われ、家族代表からも意見が出されている。参加者からは介護関係の質問も出され、情報提供を行っている。議事録は全家族に送付している。	全家族に開催案内を送付して、会議のテーマなどに関して参加できない家族の意見収集に努め、運営推進会議への関心が更に深められるように期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市とは、地理的に不便なこともあり、直接問い合わせに行く事はなく、何かあったら主に電話で質問・相談している。管理者連絡会議の際、担当者に相談する事はある。区の窓口は時々利用する。	管理者連絡会に参加して情報収集を行い、わからない事があれば、すぐ市役所に電話をして確認している。区役所に書類提出で訪問したり、生活保護課の担当職員が来訪した時、利用者の事で問題があれば相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束廃止に努めている。又、職員を北海道身体拘束ゼロ作戦推進会議主催の研修会に参加させ、伝達講習の機会を持って、職員全員が理解し取り組んでいる。	法人内に「身体拘束廃止対策委員会」を設置、マニュアルを整備している。外部研修に参加した職員が、報告研修を行ったり、管理者は、抑制する言葉は使わないように指導している。現在、安全面から職員が一人になる時のみ、車いすでベルトを使用している利用者があり、3か月毎に家族と書類を交わし状況を詳細に記録している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として虐待防止に努めている。又、職員を北海道認知症高齢者グループホーム協議会主催の「虐待に関する研修会」に参加させ、伝達講習の機会を持って、職員全員が防止に努めている。		

グループホーム 手稲ゆうゆう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人合同の研修会で学ぶ機会があった。又、成年後見人がいる入居者が他ユニットに入居されているので、制度について情報を得る機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時には十分な説明をすると共に、家族の不安や疑問にも丁寧に応えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を表せる雰囲気作りと声がけ、意見箱の設置をしている。口頭による要望などは苦情受付簿に記録し、職員会議などで検討し運営に反映している。法人として第三者委員を設置するなど説明している。	家族と日頃から会話を交わす事で、率直な意見や要望を言ってもらえる関係づくりができています。家族からの要望も苦情と受け止め、苦情受付簿に記録して全職員で検討し、ケアや運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月開催し、意見や提案を聞く機会としている。	業務担当を決めて、各担当職員が中心になって運営に携わっている。採光に配慮して非常口にブラインドを付けたり、施錠しないためにアラームを設置するなど、職員の意見を反映して改善されている。管理者は、気になる事があればその都度職員と話しをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の仕事ぶりや勤務状況を把握して、給与・賞与に反映している。労働時間の改善も図っている。外部研修は勤務扱とし費用も法人負担して、向上心をもてるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人合同の研修を2ヶ月に1回、グループホームの研修会は毎月、年間計画を立て実施し、知識と技術の向上の機会としている。又、外部研修にも職員に応じたものを受講できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は札幌市の管理者連絡会議、手稲区の会議に参加して情報交換、ネットワーク作りをしている。職員は2年に1回程度、手稲区内のグループホームを見学研修する機会を企画しているが、昨年は風邪の流行などで実施できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームへの見学時や家庭での面談時などの機会に、不安や要望をよく聴き受け止めるようにして、安心感を持ってもらうようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談時、グループホームへの見学時、家庭での面談時に家族として困っている事や要望をよく聴き、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの入居希望が主であっても、ケースによっては病院での治療が先であったり、他の施設が適当と考えられる時には納得していただけるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	月1回のお好み献立の時に、料理の作り方を教わっている。又、人生の先輩として様々なことで体験談を話してもらっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に通院介助など家族の協力が必要な事は納得してもらっている。又、行事やレクリエーションの様子や体調の変化を連絡し情報共有し、良い変化には一緒に喜び、悪化時には一緒に考えたりして、協力しあって入居者の暮らしを支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居してからも地域の方がデイサービスに来ている時に会えるようにしたり、入居前からの友人の訪問の継続を支援している。	デイサービスを利用している知人や、働いていた頃の仕事関係の人が訪問する利用者も居るが、高齢化に伴い来訪する人が少なくなっている。外出時に絵葉書きを買って利用者と職員と一緒に書くなど、可能な限り馴染みの人との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の状態によって気の合う方を把握し、居間や食堂の座る場所を考慮して和やかな関係が築けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの要望があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表現の少ない方も含めて、入居者にはそれぞれ思いや希望がある事の認識のもとに把握する努力をし、カンファレンスや職員会議で情報交換している。	利用者が発する単語や簡単な問いかけ、会話から意向を把握するように努めている。表情などから把握する事も多く、情報は「生活アセスメントシート」に毎日記録して、基本情報は年1回更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族に依頼してセンター方式に情報を記入してもらったり、本人に尋ねて、入居までの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとり担当の職員を配置して、心身状態の把握に努めると共に、職員が気づいた事を情報交換し共有するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は概ね3ヶ月に一度見直し家族の要望を確認し、計画作成担当が中心になって作成している。作成後改めて説明し同意を得、理解できる入居者には説明している。モニタリングも作成し、家族、職員の検討材料とし、介護計画に生かしている。	家族や本人の意向は可能な限り事前に確認し、担当職員と計画作成担当者が中心になって原案を作成、全職員で検討して3か月毎に介護計画を見直している。心身の状況に変化があれば、毎月の会議で検討して随時見直している。介護計画は、利用者の心身の状態に応じて本人にも説明をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は記録の重要性を認識しており、朝・夕の申し送りやノートで情報を共有し、実践や計画に生かしている。又、ケアプランの実施や医療記録は色を変えて工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の特養・老健の医務室と24時間連携している。日曜日にデイサービスの浴室を使用したり、慰問の催し物、移動販売に行くなど、事業所の持つ機能を生かしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	習字のボランティアを受け入れているが、継続して他のものを募集している。運営推進会議のメンバーである民生委員や包括支援センター職員の助言を生かしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医は継続。糖尿や心臓病の方は専門医を受診してもらい、変化に応じて医師と連携をとって、適切な医療が受けられるようにしている。その他は協力医を受診できる体制にある。	定期受診は家族対応を基本としているが、利用者の体調に応じて職員も同行して、適切な対応ができるように支援している。健康状態や受診結果は口頭で家族とやり取りし、「受診状況」に個別に記録している。	

グループホーム 手稲ゆうゆう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護師によって、週1回以上健康チェックをして医療連携を図り、医療的な部分の相談をし、助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、情報提供書を病院に送り入居者への対応が適切に行われるようにしている。入院後、見舞って関係継続・不安の軽減に努めると共に、家族・医師との連携を多く持って、早期退院に向けて取り組む方針である。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しグループホームでの生活が困難になった際には併設の特養へ転居できるように、時期を見計らって家族と話し合い申し込みをしてもらっている。終末期の対応は行っていず、家族にも説明し同意されている。	利用開始時に、「重度化した場合における対応に係る指針」を作成して、事業所の方針を説明し同意書を作成している。経口摂取が出来なくなったり、常時医療行為が必要になった場合は、事業所での生活を継続する事が難しい旨を説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、法人研修で消防署の救急救命講習、グループホームの研修会で看護師の研修を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策のマニュアルを作成し、研修を行っている。火災時の対策として、消防計画に沿って年2回以上昼間・夜間各々を想定して特養・老健と合同で避難訓練を行っている。	消防署や防災協会の協力を得て、法人全体で昼夜の火災を想定した避難訓練を年間2回実施している。職員の救急救命訓練は、法人で定期的を実施し、災害備蓄品は事業所と法人で整備している。地域との協力体制づくり、地震対策は今後の取り組みが期待される。	町内会加入を検討しているとの事なので、運営推進会議などの場で、災害時の地域との協力体制づくりが行われるように期待したい。また、地震などを想定した、災害対策を話し合う場が持たれるように期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者主体の言葉掛けや対応をし、敬意を払って接している。記録等は職員室に保管し、個人情報の取り扱いに注意している。プライバシーの研修も実施している。	年に2回、法人主催の接遇研修があり、職員が参加している。管理者は「利用者はおお客様である」という認識を持てるように指導している。特に入浴や排泄の介助には、言葉のかけ方に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の着替えや入浴などの生活の中の希望を大切にすると共に、外食・お好み献立・レクリエーションなどでも自己決定を尊重した対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時刻・食事にかかる時間、入浴の希望など、入居者の心身の状態、体調を重視して過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や整髪は本人の気持ちを大切にしている。できる部分は自分でし、できない部分は支援している。		

グループホーム 手稲ゆうゆう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の可能性を引きだし、盛り付け・配膳や食後の後片付けを役割分担して参加してもらっている。「お好み献立」「パン献立」「手作りおやつ」の日を設け、食を楽しめるように提供している。	月に1回、利用者の嗜好を聞いて献立を作り、一緒に食材の買い物に出かけている。利用者と一緒にラップに包んで丸め、おはぎや桜餅の手作りおやつを作っている。食卓にランチョンマットを敷き、食事の環境を整えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は法人の管理栄養士が献立表を作り栄養・カロリーのバランスのとれた食事となっている。水分は1日1500ccを目途に確保。水分・食事量共に個別に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の力量に応じて、声掛けや一部介助を毎食後行っている。異常が見られた場合歯科医の受診に繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、日中・夜間のパターンを把握してトイレで排泄できるように、又、失敗しないように声掛け・介助している。	日中は、全員の利用者がトイレを使っている。尿意、便意のある利用者には、失敗しないよう排泄チェック表を確認しながら早目に言葉をかけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因と心身への影響を理解し、食事の内容、水分摂取、運動量を考慮している。排便困難な方はかかりつけ医に相談のうえ薬剤による調整もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したい気持ちを大切に楽しんでいただけるようにしている。最低週2回提供しているが、受診の前日や足浴の希望にも対応している。日曜日には、1Fのデイサービスの大浴室での入浴を提供している。	毎日、午後から入浴できるようにしており、「健康チェック表」で確認することで週2回は入浴をしている。5月には、菖蒲湯を提供したり、一番風呂に入りたいという利用者には、その意向に添う様になっている。入浴を嫌う利用者には、表情を見ながら言葉をかけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	アクティビティの拡大で日中の活動量を増やして安眠できるようにしている。傾眠や疲れが見える方はその都度臥床を促して休息をとってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容を把握し、理解のうえと薬表を作成して医師の指示通り服薬できるように支援している。副作用が心配な場合観察を強化し医師に繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	デイサービスのレクリエーションに入居者も参加して、メリハリのある生活となっている。又、ガーデニングや食事の準備、習字など生活歴や力を活かした支援をしている。		

グループホーム 手稲ゆうゆう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	立地条件から個別の希望に沿った外出は困難であるが、暖かい時期は掃除後のごみ捨ての延長で出かけたり、冬季は併設施設内を散歩している。又、職員1人に入居者1～2人で手稲区内の店にショッピングに出かけたり、併設施設の売店を利用している。	3月を除いて毎月1回、バスで外出をして買い物や外食をしている。利用者と職員が一对一で買物に出かけることもあり本人の希望の商品を購入したり、ホームの共用品の買い物を手伝ってもらうこともある。居間のベランダを開放して日光浴や外気浴をとおして屋外の様子が感じられるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的にはグループホームで預かっているが、希望される方は本人にも所持してもらい金銭の授受に関われるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には電話を掛ける支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットの中央に台所があり、食事の準備や後片付けの音、匂いを感じる事ができる。年中行事の時には飾りつけをして季節感を取り入れている。華美にならず、殺風景にならないような飾りつけを工夫し、整理整頓に心がけ、居心地良く生活できるようにしている。	エレベーターを降りると正面に事務所があり、左右に2つのユニットが広がっている。居間には、テレビに向かってそれぞれ異なるデザインのソファや一人掛け用の椅子が配置され、ベランダでは洗濯物が揺れ、花の鉢植えが並んでいる。床暖房なので利用者と職員も上履きを使わないで生活をしている。また、トイレの表示や日めくり、外出時の写真などを掲示し、生活感のある空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の突き当たりに椅子を置き、窓からの景色を見ながら一人で寛いだり、気の合う人と過ごせる空間作りをしている。居間や食堂では自由に過ごしてもらっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者の思い出の品物や写真、使い慣れた家具、趣味の物を持ち込んでいただけるように家族にも協力してもらい、職員は整理整頓、掃除をして居心地良く過ごせるようにしている。	表札の傍に本人が書いた書道の半紙が貼ってあり、広い室内には歴史を感じさせる筆筒や椅子、大切な器を入れた食器棚などが置かれ、ベッドには、ぬいぐるみがくつろいでいる。絨毯を敷いたり、のれんを掛けている居室もあり、壁に設置してあるインターホンを使ってその人のペースで生活をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーにし、要所要所には手摺を取り付けて、安全かつ自立した生活を送れるように配慮している。居室やトイレ、風呂には分かり易い表示をして混乱を防いでいる。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400010		
法人名	社会福祉法人 手稲ロータス会		
事業所名	グループホーム 手稲ゆうゆう		
所在地	札幌市手稲区稲穂5条2丁目6番5号		
自己評価作成日	平成24年4月10日	評価結果市町村受理日	平成24年6月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0190400010-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①社会福祉法人として、併設の特別養護老人ホーム、老人保健施設と24時間体制で医療連携している。</p> <p>②外出行事、夏祭り、慰問への参加、火災などの避難訓練でも連携している。</p> <p>③職員の定着率が高いので、入居者の個別性の把握や円滑な業務に繋がり、質の高いケアが提供できている。</p> <p>④共用型の通所介護事業も行っているため、入居者と一緒にレクリエーションをして、日々の生活にメリハリができ活性化している。</p> <p>⑤2ユニットが1フロアにあるので、昼夜共に互いをカバーできる。又、死角が少ない造りになっている。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年5月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(もみじアウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(もみじ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「運営理念」をエレベーターホール、各ユニット、職員室に掲示して、常に確認できるようにしている。又、カンファレンス、職員会議、日頃のケア提供時など必要な時に理念に立ち返って検討し実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は、地域の小学校の「学芸発表会」に出かけているが、昨年は風邪の流行等で実施していない。法人の夏祭りでは、地域の方々とのふれあいがある。社協を通じたボランティアの活用もある。手稲区のふれあいフェスティバルの見学も受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成18年に通所を開設したので、認知症高齢者の在宅生活の継続を支援している。又、利用目的の問い合わせ時、利用以外の選択がある場合、検討を助言している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。事業計画・報告、月間行事や年間行事、自己評価・外部評価を報告し、家族代表の要望や地域代表の助言などをもらい、運営に生かしている。更に、会議録を家族に送付するとともに、職員に回覧し情報を共有している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市とは、地理的に不便なこともあり、直接問い合わせに行く事はなく、何かあったら主に電話で質問・相談している。管理者連絡会議の際、担当者に相談する事はある。区の窓口は時々利用する。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束廃止に努めている。又、職員を北海道身体拘束ゼロ作戦推進会議主催の研修会に参加させ、伝達講習の機会を持って、職員全員が理解し取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として虐待防止に努めている。又、職員を北海道認知症高齢者グループホーム協議会主催の「虐待に関する研修会」に参加させ、伝達講習の機会を持って、職員全員が防止に努めている。		

グループホーム 手稲ゆうゆう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(もみじ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人がいる方が入居されているので、制度について情報を得る機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時には十分な説明をすると共に、家族の不安や疑問にも丁寧に応えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を表せる雰囲気作りと声かけ、意見箱の設置をしている。口頭による要望などは苦情受付簿に記録し、職員会議などで検討し運営に反映している。法人として第三者委員を設置するなど説明している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月開催し、意見や提案を聞く機会としている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の仕事ぶりや勤務状況を把握して、給与・賞与に反映している。労働時間の改善も図っている。外部研修は勤務扱とし費用も法人負担して、向上心をもてるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人合同の研修を2ヶ月に1回、グループホームの研修会は毎月、年間計画を立て実施し、知識と技術の向上の機会としている。又、外部研修にも職員に応じたものを受講できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は札幌市の管理者連絡会議、手稲区の会議に参加して情報交換、ネットワーク作りをしている。職員は2年に1回程度、手稲区内のグループホームを見学研修する機会を企画している。		

グループホーム 手稲ゆうゆう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(もみじ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームへの見学時や家庭での面談時などの機会に、不安や要望をよく聴き受け止めるようにして、安心感を持ってもらうようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談時、グループホームへの見学時、家庭での面談時に家族として困っている事や要望をよく聴き、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの入居希望が主であっても、ケースによっては病院での治療が先であったり、他の施設が適当と考えられる時には納得していただけるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	月1回のお好み献立の時に、料理の作り方を教わったり、ベランダの花や野菜の育て方、茶道の作法や編み物を教えてもらっている。又、人生の先輩として体験談を聞いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に通院介助など家族の協力が必要な事は納得してもらっている。又、行事やレクリエーションの様子や体調の変化を連絡し情報共有し、良い変化には一緒に喜び、悪化時には一緒に考えたりして、協力しあって入居者の暮らしを支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	もと職場の同僚の訪問があったり、一年に一回小学校の同窓会に出席するなど、なじみの関係の継続を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の状態によって気の合う方を把握し、居間や食堂の座る場所を考慮して和やかな関係が築けるようにしている。		

グループホーム 手稲ゆうゆう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(もみじ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの要望があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表現の少ない方も含めて、入居者にはそれぞれ思いや希望がある事の認識のもとに把握する努力をし、カンファレンスや職員会議で情報交換している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族に依頼してセンター方式に情報を記入してもらったり、本人に尋ねて、入居までの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとり担当の職員を配置して、心身状態の把握に努めると共に、職員が気づいた事を情報交換し共有するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は概ね3ヶ月に一度見直し家族の要望を確認しながら、計画作成担当が中心になって作成している。作成後改めて説明し同意を得ている。モニタリングも入居者・家族から情報を得ながら、実施記録している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は記録の重要性を認識しており、朝・夕の申し送りやノートで情報を共有し、実践や計画に生かしている。又、ケアプランの実施や医療記録は色を変えて工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の特養・老健の医務室と24時間連携している。日曜日にデイサービスの浴室を使用したり、慰問の催し物、移動販売に行くなど、事業所の持つ機能を生かしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	習字のボランティアを受け入れているが、継続して他のものを募集している。運営推進会議のメンバーである民生委員や包括支援センター職員の助言を生かしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医は継続。糖尿や心臓病の方は専門医を受診してもらい、変化に応じて医師と連携をとって、適切な医療が受けられるようにしている。その他は協力医を受診できる体制にある。		

グループホーム 手稲ゆうゆう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(もみじ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護師によって、週1回以上健康チェックをして医療連携を図り、医療的な部分の相談をし、助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、情報提供書を病院に送り入居者への対応が適切に行われるようにしている。入院後、見舞って関係継続・不安の軽減に努めると共に、家族・医師との連携を多く持って、早期退院に向けて取り組む方針である。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しグループホームでの生活が困難になった際には併設の特養や、より適切な機能の施設へ転居できるように、時期を見計らって家族と話し合い申し込みをしてもらっている。終末期の対応は行っていない、家族にも説明し同意されている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、法人研修で消防署の救急救命講習、グループホームの研修会で看護師の研修を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策のマニュアルを作成し、研修を行っている。火災時の対策として、消防計画に沿って年2回以上昼間・夜間各々を想定して特養・老健と合同で避難訓練を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者主体の言葉掛けや対応をし、敬意を払って接している。記録等は職員室に保管し、個人情報の取り扱いに注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の着替えや入浴などの生活の中の希望を大切にすると共に、外食・お好み献立・レクリエーションなどでも自己決定を尊重した対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時刻・食事にかかる時間、入浴の希望など、入居者の心身の状態、体調を重視して過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や整髪は本人の気持ちを大切にしている。できる部分は自分でし、できない部分は支援している。		

グループホーム 手稲ゆうゆう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(もみじ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の可能性を引きだし、盛り付け・配膳や食後の後片付けを役割分担して参加してもらっている。毎月「お好み献立」「パン献立」「手作りおやつ」の日を設け、食を楽しめるように提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は法人の管理栄養士が献立表を作り栄養・カロリーのバランスのとれた食事となっている。水分は1日1500ccを目途に確保。水分・食事量共に個別に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の力量に応じて、声掛けや一部介助を毎食後行っている。異常が見られた場合歯科医の受診に繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、日中・夜間のパターンを把握してトイレで排泄できるように、又、失敗しないように声掛け・介助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因と心身への影響を理解し、食事の内容、水分摂取、運動量を考慮している。排便困難な方はかかりつけ医に相談のうえ薬剤による調整もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したい気持ちを大切に楽しんでいただけるようにしている。最低週2回提供しているが、日曜日には、1Fデイサービスの大浴室での入浴も提供している。拒否の強い入居者には体調を確認してから声掛けを行って入浴してもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	アクティビティの拡大で日中の活動量を増やしたり、室温、湿度、シング等を工夫して安眠できるようにしている。傾眠や疲れが見える方はその都度臥床を促して休息をとってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容を把握し、理解のうえと薬表を作成して医師の指示通り服薬できるように支援している。副作用が心配な場合観察を強化し医師に繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	デイサービスのレクリエーションに入居者も参加して、メリハリのある生活となっている。又、ガーデニングや食事の準備、掃除、習字など生活歴や力を活かした支援をしている。		

グループホーム 手稲ゆうゆう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(もみじ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	立地条件から個別の希望に沿った外出は困難であるが、暖かい時期は掃除後のごみ捨ての延長で出かけたり、冬季は併設施設内を散歩している。又、職員1人に入居者1~2人で手稲区内の店にショッピングに出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的にはグループホームで預かっているが、家族・本人が希望される方には所持してもらい金銭の授受に関われるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には電話を掛ける支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットの中央に台所があり、食事の準備や後片付けの音、匂いを感じる事ができる。年中行事の時には飾りつけをして季節感を取り入れている。華美にならず、殺風景にならないような飾りつけを工夫し、整理整頓に心がけ、居心地良く生活できるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の突き当たりに椅子を置き、窓からの景色を見ながら一人で寛いだり、気の合う人と過ごせる空間作りをしている。居間や食堂では自由に過ごしてもらっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者の思い出の品物や写真、使い慣れた家具、趣味の物を持ち込んでいただけるように家族にも協力してもらい、職員は整理整頓、掃除をして居心地良く過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーにし、要所要所には手摺を取り付けて、安全かつ自立した生活を送れるように配慮している。居室やトイレ、風呂には分かり易い表示をして混乱を防いでいる。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 手稲ゆうゆう

作成日：平成 24年 6月 8日

市町村受理日：平成 24年 6月 12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	全家族に開催案内を送付して、会議のテーマなどに関して参加できない家族の意見収集に努め、運営推進会議への関心が更に深められるように期待したい。	運営推進会議に参加を希望されたり、関心を持たれる家族が出てくるようにし、グループホームの運営への理解を高める。	①5月の運営推進会議録に外部評価の改善点として指摘されたことを記録し、全家族に送付。 ②7月に開催する平成24年度第2回運営推進会議の際、全家族に案内を送付。 ③ご家族来訪時、会議のテーマについての意見や感想を収集する。	平成24年 6月以降 継続
2	35	町内会加入を検討しているとの事なので、運営推進会議などの場で、災害時の地域との協力体制づくりが行われるように期待したい。また、地震などを想定した、災害対策を話し合う場が持たれるように期待したい。	職員会議や研修で災害対策について話し合うだけでなく、運営推進会議においても、地域と相互に協力し合える体制づくりを図る。	①平成24年度事業計画に基づき、8月に「非常災害時の対応について」の研修を実施して、職員間の意識の向上を図る。 ②5月の運営推進会議開催時、町内会役員も含めたメンバーで話し合う。 ③町内会加入に向けて継続して努力する。	平成24年 5月23日 以降継続
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。